

平成二十六年
足立学園中学校 第一回 一般 入試問題 国語

【書名の訂正】

本文10ページ 22行目

(誤)『友達幻想』

(正)『友だち幻想』

一次の——のカタカナは漢字に直し、漢字にはよみがなを付けなさい。

㊦ 銀行にお金をアズける。

㊧ 道に落ちていたゴミをヒロウ。

㊨ カナダはリンギョウの盛んな国だ。

㊩ 五月はシンチャの季節だ。

㊪ 重たい荷物をがんばってハコぶ。

㊫ 彼は一番だと自負している。

㊬ カエルの天敵はヘビだ。

㊭ 治水工事が行われている。

㊮ 経済効果で国が富む。

㊯ 時間と労力を費やす。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(都合上、本文は一部変更してあります。)

「おれ」は小学六年生の山口拓馬^{たくま}。学校ではヤル気のなさを前面に出して生活しているが、クラスメートに仕組まれて体育大会のハードル選手に選ばれてしまう。そんなことで気落ちしているときに、家では、静岡^{しずおか}の病院で療養^{りょうよう}していた弟・健児^{けんじ}が七年ぶりに戻^{もど}ってきたことでリズムが狂い、大いに振り回^ふされている。その健児とはことあるたびに衝突^{しょうとつ}し、兄弟の仲はぎくしゃくしている。

金曜の朝の食卓^{しょくたく}で、おふくろはおれにこういった。

「きょうの夕方、健児をつれて本屋に行こうと思うのよ。ほら、もうじき通学はじまるでしょう。あの子、勉強^{おく}遅れ気味だし、こっちで使う教科書に合ったドリルを揃^{そろ}えてやりたいの。で、悪いんだけど、そのあいだだけ、お留守番してもらえない？ 通販^⑩で買ったお味噌^{みそ}の樽^{たる}がそろそろ届くはずだから」

「うん、まあ、別に、かまわないけど」

その日は塾^{じゅく}もなかったし、ほかに断る理由もないので、軽い気持ちで引き受けた。それで、いつもより少し早めに放課後練を終わらせて、おふくろたちの出発時間^{*}に間に合うように家に戻った。支度^{したく}をすませたおふくろは、車庫で車をみがいていた。なのに、肝心^{かんじん}の健児のやつは、家のどこにもいなかった。

「あいつ、いったい、なにやってんの？」

「自転車に乗って出かけたみたい。本屋に行くって話してあるから、そろそろ戻ると思うけど」

「でも、もう出かける時間ですよ。おれ、そのへん、ちょっと見てくるよ」

しょうがねえなと思いつつ、おれは、そういう残して外へ出た。

走っていったら、河原^⑪の土手^{かわら}には、ほんの一分くらいで着いた。たくさんの人にぎわっていた日曜日とはうってかわって、ウィークデーの午後の河原は、無気味なくらいにしんとしていた。

「健児？」

何度か呼んでみたけど、だれも返事をしなかった。遊歩道にもススキノ原にも、おれの自転車は置いてなかった。河原のほかに、やつが行きそうな場所があるとは思えなかった。行き違^{ちが}いになったらなつたで、引き返さないとまずかった。

- 2 -

【Ⅰ】

おれは回れ右をして、今きた道を戻ろうとした。上流からの冷たい風が河原を縦に吹き抜^ぬけた。真下に広がるススキのむれが、右と左にぱっくり割れた。そのまん中に、くすんだ色の塊^{かたまり}みたいなのがいた。人じゃないのは、すぐにわかった。でも、それがなにかは、わからなかった。倒^{たお}れたススキが元に戻ると、塊はもう見えなくなった。

【Ⅱ】

いや、健児がいったオオカミなんて、おれはちっとも信じてないし、信じたいとも思わない。だからかえって、確^⑫かめなくちやいけないような気がしてたんだ。「オオカミみたいなノラ犬」が、実際にそこにいるのかどうか。

【Ⅲ】

考えこんでるひまはなかった。おれは斜面^{しゃめん}を滑り下ると、背たけほどもあるススキの波を、両手で(A)かきわけた。それから、ゆっくり前へ進んだ。一步、二歩、三歩、四歩。しばらくすると、ススキの向こうに黒っぽいものが見えてきた。また何歩か進むと、色と形がいよいよはつきり見えてきた。灰色をした、その塊^{かたまり}は、(B)毛が生えていた。(C)した尻尾^{しっぽ}もあったし、とがった耳があるのも見えた。そいつはこっちに背中を向けて、地面に長く伸び^のびていた。試しに指を鳴らしてみたけど、耳は(D)もしなかった。

【Ⅳ】

眠^{ねむ}ってるんだ、とおれは思った。

で、また一步、前に進んだ。それでもそいつが動かないので、最後の一步を踏^ふみだした。そこにいたのは、どこから見ても、やつぱりただの犬だった。ほらみる、健児のおおぼらふきめ、と心のなかでつぶやきながら、おれはすっかり得意になつて、もう一度、犬を見下ろした。

犬は、まぶたを閉じていた。

でも、眠^⑬っているのと、それは違^{ちが}った。

うつすら開いた口からは、でろりと舌が垂れていた。四本の足は、棒きれみたい。に先のほうまでつっぱっていた。それは、たしかに、つい最近まで生きものだったはずだけど、いまは生きるのをやめていた。簡単にいうと、死んでいた。

さっきまでいた土手のあたりに、自転車の停^とまる音がした。続いて、だれかが斜

面を下りて、こっちに走ってやってきた。おれは後ろを振り向いた。ススキがばさつとかきわけられて、白い綿毛がふわふわ飛んだ。健児が、そこに立っていた。

何分間か、おれたちは、ほとんどなにもしゃべらなかった。しゃべらなくても、しなくちゃならないことがあるのは、知っていた。家に戻ってわけを話すと、おふくろはすぐに受話器をとって、市の清掃局がやっている環境センターに電話した。二階に上がった健児とおれはクローゼットをごそごそ探り、衣装ケースにしまつてあったシーツを一枚、引っぱり出した。

おれは健児が泣くと思った。ぐずで、とろくて、甘えん坊で、いやなことがあるとピーピー泣く。ガキつて、そういうものだから。なのに、健児は泣いたりしなかった。最初に死骸を見たときも、ススキノ原にふたたび行つて、シーツで死骸をくるんだときも。健児は唇をきゅつと結んで、しっかりと目を開けていた。おじけづいたりしていなかったし、動きも、とてもきびきびしていた。そのうち、環境センターのワゴン車が土手にやってきたので、健児とおれはシーツの端をそれぞれ持つて、斜面をのぼった。

それで、ようやく、おれたちがしなくちゃならないことは終わった。死骸をのせたワゴン車が角を曲がって見えなくなると、緊張が解けて力が抜けた。とたんに、胸が苦しくなった。

「ウエ」

おかしな声が出た。おれは、その場にしゃがみこみ、きゅつとすぼんだのどを押さえて、すっぱい液をゲロゲロはいた。

「なにやってんの」

頭の上から、健児の言葉がふつてきた。敬語は使っていなかった。ぶつきらぼうないいかただった。

「大丈夫だよ、死んだだけだよ。気持ち悪いこと、なんにもないよ。おにいちゃん、興味なさそうだから、ぼく、いままでずっと黙ってたけど、あいつ、年寄りみたいだったし、ここんとか具合悪くてさ。エサも、そんなに食べてないのに、お腹がへんに膨れてた。だから、死んでもおかしくないんだ。そんなの、普通のことなんだ。生きてりや、そのうち死ぬっていうの、わかんないやつが、ビビるんだ。ぼく病院で、病気の人も、死にそうな人も、いっぱい見てる。そういうところに長くいたか

ら、あんなの、ちつとも怖くない。ねえ、人がばたばた死んじゃう映画、面白いんでしょ？ おにいちゃん。お子さま向けのSF映画は、くだらないんでしょ？ おにいちゃん」

最初は、小さな声だった。それがだんだん大きくなって、一気にべらべらまくしたてると、健児はつばを飲みこんだ。

「だったら、吐いたりするなよなっ」

最後のセリフが耳にささった。みつともなくて、情けなくって、死んでしまった気分になった。おれは吐き気をぐつとこらえて、ひざに手をあてて、よろよろ立った。ばさばさになった舌の奥から、言葉が自然とこぼれた。

「わかった、ごめん。悪かった」

いつてみてから、驚いた。年下のやつに謝るなんて、たぶん、生まれてはじめてだった。

「わかれば、いいよ」

まだ少しだけとがった口でそういうと、健児はくると背中を向けて、自転車を引きいて歩きはじめた。

(E) に家に戻ったときには、とつぷりと日が暮れていた。

「本屋は、そのうち行ったらいいわ。今夜は早く寝なさい、ね」

しんみりしているふたりの息子に、おふくろはひどくやさしくいった。健児とおれは、いわれたとおりの汚れた服をせつせと脱いで、かわりばんこにシャワーを浴びて、十時すぎにはベッドに入った。

疲れていたけど、その晩は胃がむかむかして眠れなかった。健児は健児で、いったんもぐったベッドを夜中に抜け出して、「シリーズ・宇宙 その三 惑星」とかいいうビデオを眺めていた。おれは眠ったふりをしながら、耳をすまして音だけ聞いた。何分かすると、健児の好きな火星の話がはじまった。

「――太陽系の惑星のなかで、火星は地球の隣にあつて、それぞれ別の軌道の上をぐるぐると回りつづけています。ふたつの星は、おおよそ二年二ヵ月ごとに接近するため、わたしたちは肉眼で火星をとらえることができます」

閉じたまぶたの裏側に、ふたつの星が浮かび上がった。片ほうの星は青かった。これが地球だ、とおれは思った。もう片ほうは赤かった。これが火星だ、とおれは思った。ささやき声は、地球と火星が近くて遠い星だといった。似ているところと、

ちがうところが、たくさんある星なんだといった。

(笹生陽子『きのう、火星に行った。』より)

語注 *放課後練……体育大会に向けた放課後の練習。

問1 次の文は、「Ⅰ」～「Ⅳ」のうち、どこに入るのが適切ですか。記号で答えなさい。

心臓が胸をドクンとついた。

問2 ①「通販」とありますが、これは漢字四字からなる言葉の省略形です。正しくはどのように書きますか。漢字四字で答えなさい。

問3 ②「河原の土手には、ほんの一分くらいで着いた」とありますが、「おれ」はなぜ河原に行ったのですか。それがわかる一文を、本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問4 ③「だからかえって、確かめなくちゃいけないような気がしてたんだ」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「オオカミみたいなノラ犬」を実際に見てみたかったから。
イ それがオオカミではないことを証明してみせたかったから。
ウ 人じゃないがそこに何かがいることを確かめたかったから。
エ 兄としてしっかりとしたところを見せなければならなかったから。
オ 信じていないことを信じさせる力がそこにはあったから。

問5 (A)～(D)に入る最も適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉は二度使いません。

- ア びつしりと イ びくりと ウ ふさふさと
エ うるうると オ さくつと

問6 ④「眠っているのと、それは違った」とありますが、では犬は何をしていたのですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問7 ⑤「おれは健児が泣くと思つた」とありますが、なぜそのように思つたのですか。その理由となるひと続きの二文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問8 ⑥「おれたちがしなくちゃならないこと」とありますが、この時の「しなくちゃならないこと」として、正しくないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 環境センターに連絡してもらうこと。
イ 犬の死骸をシートでくるむこと。
ウ ワゴン車に死骸をのせること。
エ 悲しい気持ちになること。
オ 飼い主としての責任を取ること。

問9 ⑦「なにやってんの」から始まる健児の言葉・セリフに込められて

- ア 兄に対する悲観。
イ 兄に対する軽蔑。
ウ 兄に対する冷遇。
エ 犬に対する後悔。
オ 犬に対する未練。

問10 (E)に入る最も適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一度め イ 二度め ウ 三度め エ 四度め オ 五度め

問11 ——— ⑧ 「かわりばんこにシャワーを浴びて、十時すぎにはベッドに入っ

た」とありますが、「かわりばんこに」という言葉は、どこに係っていますか。
最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア シャワーを

イ 浴びて

ウ 十時すぎには

エ ベッドに

オ 入った

問12 ——— ⑨ 「ささやき声は、地球と火星が近くて遠い星だといった。似てい

るところと、ちがうところが、たくさんある星なんだといった」とありますが、
これは「地球と火星」以外のことも表していると言えます。それは何のことです
か。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア おれと健児

イ おふくろと息子

ウ 生と死

エ 犬と人間

オ 健康な人と病氣の人

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(都合上、本文は一部変更してあります。)

[＊]「そがいご」
阻害語の代表的なものが、「ムカつく」と「うざい」という二つの言葉です。

この言葉は、このところ若者を中心にあつという間に定着してしまった感のある
言葉です。「ムカつく」とか「うざい」というのはどういう言葉かというと、自分の
中に少しでも不快感が生じたときに、そうした感情をすぐに言語化できる、非常に
便利な言語的ツール[＊]なのです。

つまり、自分にとって少しでも異質だと感じたり、これは苦い感じだなどと思った
ときに、すぐさま「おれは不快だ」と表現して、異質なものと折り合おうとする意
欲^{そくざ}を即座に遮断^{しゃだん}してしまう言葉です。しかもそれは他者に対しての攻撃^{こうげき}の言葉とし
ても使えます。「おれはこいつが気に入らない、嫌いだ」ということを根拠^{こんきょ}もなく感
情のままに言えるということです。ふつうは、「嫌いだ」と言うときには、「こうい
う理由で」という根拠^そを添えなければなりません。が、「うざい」の一言で済んでしま
うわけです。自分にとって異質なものに対して端的な拒否^{たんてき きよひ}をすぐ表明できる、安易^⑩
で便利な言語的ツールなわけですね。

だから人とのつながりを少しずつ丁寧^{ていねい}に築こうと思ったとき、これらの言葉はな
おさら非常に問題をはらんだ言葉になるのです。

どんなに身近にいても、他者との関係というものはいつも百パーセントうまくい
くものではありません。関係を構築していく中で、常にいろいろな阻害要因が発生
します。他者は自分とは異質なものであるから、当然です。じっくり話せば理解
し合えたとしても、すぐには気持ちが伝わらないということもあります。そうした
他者との関係の中にある異質性を、ちよつと我慢^{がまん}して自分の中になじませる努力を
最初から放棄^{ほうき}しているわけです。

(1) 「うざい」とか「ムカつく」と口に出したとたんに、これまで私が幸福
を築くうえで大切だよと述べてきた、異質性を受け入れた形での親密性、親しさの
形成、親しさを作り上げていくという可能性は、ほとんど根こそぎゼロになつてし
まうのです。これではコミュニケーション能力が高まっていくはずがありません。

(2) 、流行語になるずっと以前から、「むかつく」とか、「うざったい」とい
う言葉はありました。でもあまり日常語として頻繁^{ひんぱん}に現れるということはありません

んでした。なぜかといえば、現在の状況じょうきょうのように、すぐに「ムカツク」とか「うぜー」と表現することを許すような、場の雰囲気かんいきというものがなかったのです。でも今はあります。

「ムカツク」「うざい」が頻繁に使われる以前はどうしていたのでしょうか。私たちの世代でも今の若い人たちと同じように、ムカついたり、うざいという感情を持つことはあったはずです。でもそれを社会的に表現するには、それだけの理由、相手に対するそういう拒絶④を表現してもいいのだという根拠を与える理由がないと言えないという雰囲気があったわけです。

それが今は、主観的な心情を簡単に発露はつろできてしまうほど、社会のルール性がゆるくなってしまったのだと思います。昔は、そんな言葉はきちんとした正当性がな限り言っではいけないという暗黙あんもくの了解りようかいがありました。(3)、いくらムカついてもグツと言葉を飲み込んでおくことによつて、ある種の耐性⑤がうまく作られていったと思うのです。

(4)、ここで私の娘の話ももに戻りますが、こうした言葉を言わなくなつてから人に対する彼女の態度がハッキリ変わりました。自分が気に入らない状況やまるごと肯定こうていしてはくれない他者に対してある程度耐性が出来上がったようなのです。それは単に年齢ねんれいが上になったからとか、少し大人になったからといった自然成長的な変化ではありません。彼女の内面で確実に何かが変わつたのだと思います。

友だちとのコミュニケーションを深くじっくり味わうためにも、自分の内面の耐性を鍛えるきたためにも、「ムカツク」「うざい」という言葉はやはり使わないほうがいいでしょう。

(菅野仁『友達幻想』より)

語注 * 阻害語……物事の進行をじゃまする言葉。ここでは友だちとのコミュニ

ケーションをさまたげる言葉のこと。

* ツール……道具。

* はらんだ……中にふくんでいる。

* 発露……表面にあらわれること。

問1 (1) (4)に入る最も適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉は二度使いません。

ア なぜなら イ つまり ウ だから エ もともと オ さて

問2 ①「安易で便利な言語的ツール」とありますが、これは阻害語のどのような特徴を表していますか。最も適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の感情を詳しい説明もなしに、一言で表現できる。
イ 自分の感情を相手に遠まわしに、やんわりと表現できる。
ウ 自分の感情を実際よりも大人っぽく表現できる。
エ 自分の感情を表す言葉を考える必要もなく、すぐに表現できる。
オ 自分の感情を相手に対して、実際の気持ち以上に過大に表現できる。

問3 ②「むかつく」とありますが、本文中で他の部分では「むかつく」はカタカナで表記されていますが、ここではひらがなで表記されています。その理由を以下のように説明しました。(1)に当てはまる語句を本文中から三字で抜き出して答えなさい。

カタカナでの表記は現代によく用いられる()としての表記であり、ひらがなでの表記は元々の「むかむかする」など辞書的な言葉としての表記である。

問4 ③「あまり日常語として頻繁に現れる」ということはありませんでした」とありますが、以前に比べて、現在日常語として「現れる」機会が増えたのは昔と今とで何が変わったからですか。本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問5 ④「拒絶」とありますが、これと反対の意味を持つ語句として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 放棄 イ 反発 ウ 謝罪 エ 防止 オ 受容

問6 ————— ⑤ 「そんな言葉」とありますが、どのような言葉ですか。それを説

明した次の文の（ ）に本文中から適切な言葉を抜き出して答えなさい。ただし、（ ）内の字数とします。

自分の（ア 三字 ）な心情だけで相手のことを（イ 二字 ）する言葉。

問7 ————— ⑥ 「耐性」とはどういう意味ですか。「うこと。」に続く形で本文中

から三十四字で抜き出して答えなさい。

問8 ————— ⑦ 『ムカツク』『うざい』というういでしょう』について

(1) これらの言葉を使わない目的は何ですか。最も適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自己の心情を第一に考え、合わない人とは関わらないようにするため。

イ 自分と他人との違いを我慢し、その違いを認める努力をするため。

ウ 友達との人間関係を構築していき、自分の幸福を築いていくため。

エ 大人になるまでは絶対に人間関係で悩むことの無いようにするため。

オ 常に自分の気持ちに素直に、思ったことは何でも言う性格になるため。

(2) これらの言葉を使うことで人が身につけることができなくなる力は何ですか。本文中から十一字で抜き出して答えなさい。

国語解答用紙

足立学園中学校 第一回一般入試

㊦	㊧
	ける
㊨	㊩
	う
㊪	㊫
㊬	㊭
む	
㊮	㊯
やす	ぶ

二			
問 8	問 6	問 5	問 1
		A	
			問 2
問 9		B	
問 10		C	
			問 3
問 11		D	
	問 7		
問 12			
			問 4

三				
問 8	問 7	問 6	問 2	問 1
(1)		ア		1
				2
(2)		イ	問 3	
				3
			問 4	
				4
			問 5	
	。 じふ。			

受験番号
座席番号
氏 名
得 点

(注) 受験番号及び座席番号は算用数字で書きなさい。